

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

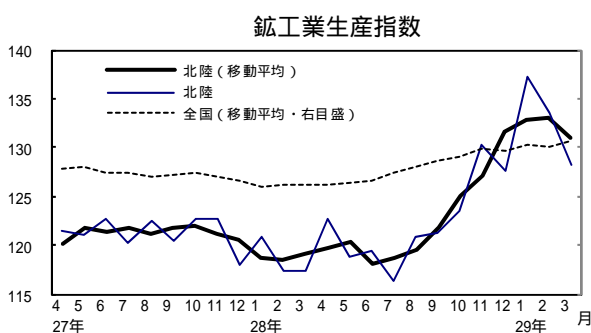
前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年2月)	今回(平成29年5月)	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

1～3月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン用の電子部品等が増加した。化学は、医薬品を中心に高水準でおおむね横ばいとなった。はん用・生産用・業務用機械は、繊維機械等が増加した。繊維は、化学繊維等が増加した。金属製品は、建設用金属製品等が増加したものの、おおむね横ばいとなった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

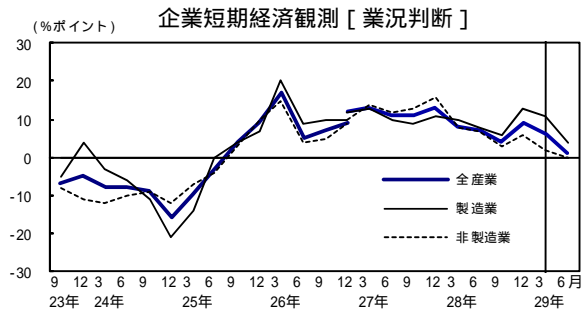
	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	20.8	18.7	10.4	9.4	0.5	15.5
化学	13.5	0.5	1.4	17.1	9.6	1.9
はん用・生産・業務用機械	12.7	11.0	10.2	4.0	6.6	7.2
繊維	8.4	1.2	3.1	3.6	2.1	0.7
金属製品	6.0	0.2	0.7	5.4	5.9	1.3
鉱工業	100.0	6.4	4.6	7.5	2.6	4.0

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

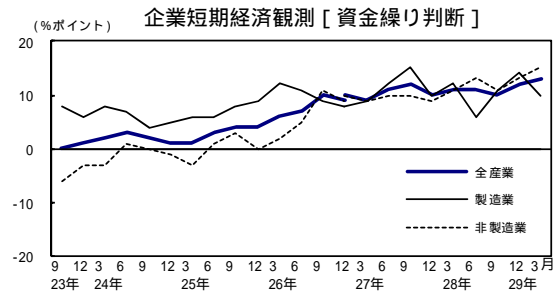
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(7) 北陸

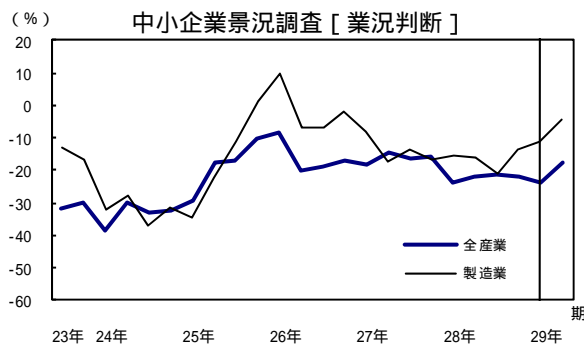
(2) 業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測。
 26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 26年12月は新・旧基準を併記。

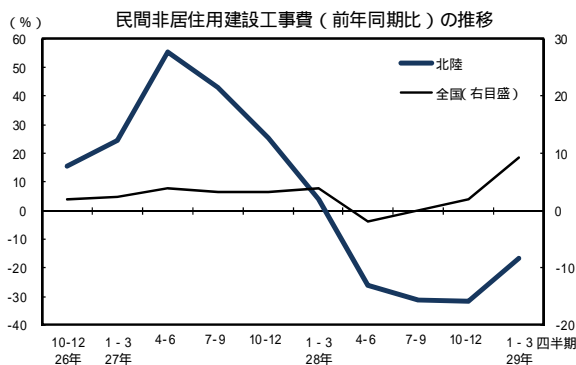


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「最近の客の動きをみると、建設業、製造業などで仕事の予定が順調に入ってきている様子である(税理士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績見込み	29年度見通
全産業	8.0 (3.0)	1.1
製造業	16.1 (5.5)	6.5
非製造業	44.4 (0.7)	3.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

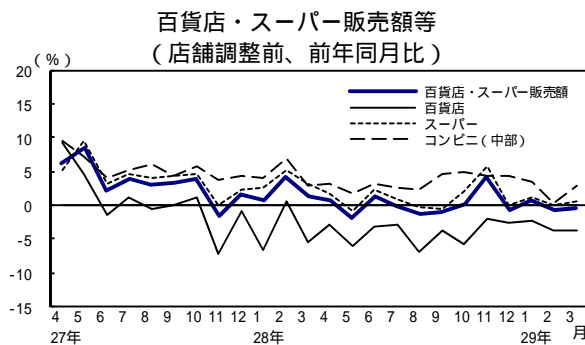
1月は前月比0.9%増、2月は同1.7%増、3月は同1.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1月は、中旬以降の降雪の影響で客数が減少したものの、野菜の相場高や催事効果もあって飲食料品が堅調に推移し、百貨店の一部では高額品にも動きがみられたことから前年を上回った。2月は、バレンタインなどの催事効果もあって飲食料品は堅調に推移したものの、気温影響などから衣料品を中心に季節商材が振るわず、また全体として昨年うるう年だったことの影響もあり、前年を下回った。3月は、新規店舗への客足の流れもあってスーパーが前年を上回ったものの、気温影響により衣料品を中心に春物が振るわなかったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「今月は花見や歓迎会があり、新年度に入って更に人出が増え、観光客も増加してきた (タクシー運転手)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



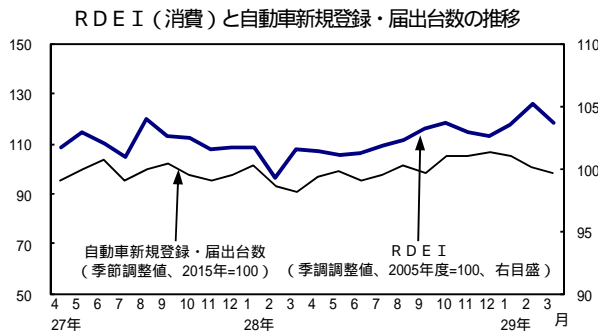
	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	0.9	1.7	1.5
百貨店・スーパー(*2)	0.2	0.6	0.8	0.4
百貨店(*2)	3.2	2.3	3.6	3.7
スーパー(*2)	0.6	1.3	0.1	0.5
コンビニ(*2)	2.3	3.6	0.4	2.9
乗用車(*3)	7.5	6.0	7.6	8.1
(季節調整値)(*3)	3.9	0.9	4.8	2.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

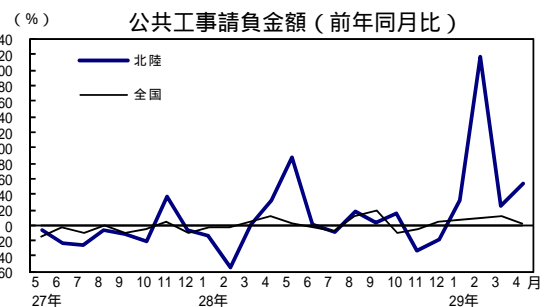
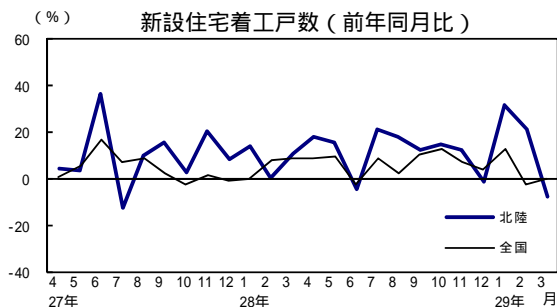
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲は前年を下回ったものの、持家、貸家を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。



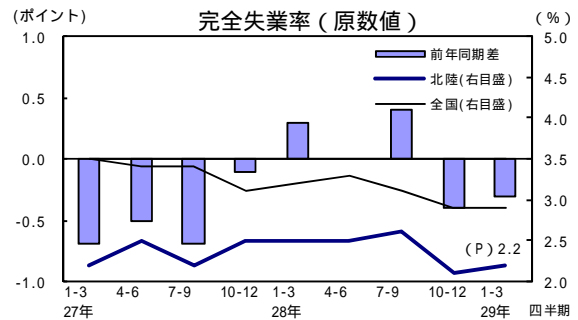
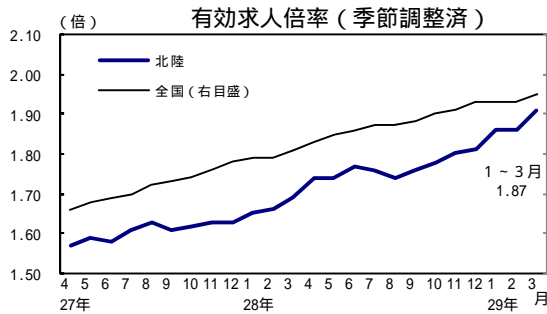
(7) 北陸

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 1. 北陸は内閣府にて算出。
2. 1 - 3月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]

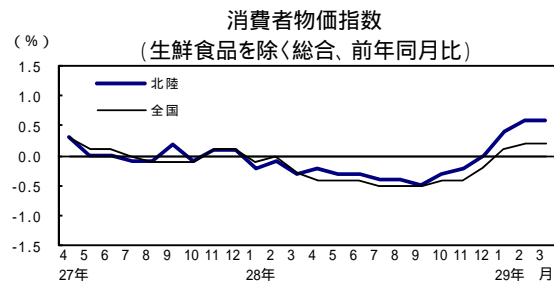
「求人広告の掲載数が、前年比で約 150%と大幅に伸びた。業種別のバランスは前年、一昨年と比較してもあまり変わっておらず、全体的な人手不足感が定着してきたと考えられる。その中でも前年よりも大きく伸びた掲載数から、その人手不足感が再び加速しつつある状況であると考えられる。これは景気が続けて上向きになっている証拠であると考えられる (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	63	46	42	54	15
(前年比)	6.8	24.3	22.2	5.3	40.0
負債総額	35	71	51	149	8
(前年比)	95.6	23.0	46.0	39.9	59.3



(備考) 北陸は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ここ3か月間は、販売量が確実に前年を超えてきた。営業現場は忙しい気がしないと言っているものの、北陸新幹線開業効果が再び盛り返してきたように感じる (一般小売店 [鮮魚])

<先行き>

・ドライバー不足が深刻となっており、仕事が受託できない状況になりつつある (輸送業)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

